

防災

小学校中学年以上 中学校

学級活動 総合

課外授業 ようこそ先輩

🕒 23分

記事にしよう
石巻日日新聞

未来のふるさと
武内宏之

(2012年放送)

この番組の良さ



希望をもてる新聞づくり

石巻日日新聞の武内宏之報道部長は、東日本大震災直後、印刷できない中で手書きの壁新聞を発行、被災者たちに希望を与え続けました。母校・石巻市立住吉小学校での授業の課題は、震災から立ち直った8年後の石巻を想像して新聞にすることです。子供たちは、「町の現状はどうか」「何が復興の課題か」を考えつつ、仮設住宅・商店街・市役所を取材します。「復興の仕上げをするのはこの子供たちだ」…武内さんの思いが授業にこもります。

震災の経験を自信と力に

今後復興の仕上げをすることになる子供たちが、地域が現在どのような問題を抱えているか、現状をしっかりと見て取材してゆきます。「新聞づくりを通して未来のふるさとを考える」-そこには、震災の体験をただつらい思い出として残すのではなく、それを乗り越えたという自信を子供たちにもってほしいという武内さんの願いが込められています。

番組活用のポイント

未来に希望をもてるように

宮城県石巻市にある、100年以上の歴史をもつ石巻日日新聞。記者人生を歩んできた武内宏之さんが母校の小学校で授業をします。震災当時は報道部長として取材を指揮し、津波で町が壊滅的な被害をうける中、翌日からコンビニエンスストアや避難所に手書きの壁新聞を貼り出して地域の人たちに情報を伝え続けました。その壁新聞は国内外で広く注目され、数々の賞を受賞、オリジナル版は米・ワシントンの報道関連の博物館にも展示・保存されました。武内さんは、希望をもてる新聞づくりが地域紙の役割だといいます。

この番組の視聴を通して、震災を乗り越える力や、困難と向き合い生きていくことの大切さを考えることができます。限られた状況で何ができるのかを考え、行動に移す姿勢を学びます。地域の個性を知り、それを守る大切さを考えるきっかけづくりにもつなげられます。

防災と復興の課題を考える

被災地には今も生々しい傷跡が多くあり、復興はなおも続きます。映像などで被災地を見た場合「こんなに復興が進んだのか」と感じられますが、被災した人々にとってはまだまだ癒えない傷が多く残っています。震災の記憶を風化させることなく、防災意識を高めながら地域を再生させてゆくことが大切です。

この番組を通じて、子供たちが相手の立場や気持ちになって防災と復興を意識し、課題を考えるきっかけにつなげたい、将来を見据えて取り組む動機付けにし、さらには、命の大切さ・重さについても考えさせたい、さまざまな関わりの中で支える・支えられていることを確認し、防災と向き合う時間にしてほしいと思います。防災を支える社会基盤、命を守る新たな仕組みについて考える学びに発展させていきましょう。

学習展開例

授業時間 50分



東北学院中学校・高等学校
教諭 氏家洋治

執筆

未来新聞から学ぶ防災と復興

時間配分	学習活動	教師の支援
10分	①自分が東日本大震災のような大災害に遭ったときにどうなるか、それに備えて防災のために必要なこと、8年後の復興のために必要なことについて考え、話し合う。	○防災や被災地復興について意見を述べさせる。 ○どうすれば、目標とする社会に近づけるかなど、課題について話し合う。(あらかじめテーマやグループ毎の編成にしておくとうい。)
25分	②気づいたことをメモしながら、番組を視聴する。  武内さんは、報道部長として取材を指揮。被災に役立つ情報を提供した。  武内さんは手書きの壁新聞を作成し、翌日からコンビニや避難所に貼り出して地域の人たちに情報を伝え続けた。  震災直後に発行した手書きの壁新聞を子供たちに説明した。  市役所・商店街・仮設住宅それぞれを取材して未来新聞を作り、発表する。	○ワークシートを配布し、番組で気づいたことや自分の考えを可能な範囲でメモさせる。 ○番組視聴は開始から終了まで。 ○武内さんが子供たちに伝えたいメッセージの箇所は一時停止をさせ、助言や補足する。 ・1分42秒、6分25秒、12分7秒、21分33秒のところで一時停止する。(助言・補足する) ・困難と向き合い生きていくことの大切さ。 ・困難を乗り越えようとする力。 ・さまざまな関わりの中で支える、支えられていること。これらに気づかせたい。
15分	③まとめと振り返りをする。 ・番組を視聴しての意見交換をする。 ・番組視聴前に出されたテーマに対して、今できること、それが可能かを考え、やらなければならないことを確認する。	○番組を視聴し、考えたことを話し合わせる。 ○8年後の社会に向けて、自分ができる防災・復興策とは何かを考え、地域ができること、国の政策として進められることなどを考えさせる。

防災

コラム

<防災>の番組を利用した先生の感想から

明日へ 再起への記録 ガレキの町の小さな一歩～岩手・大槌小学校6年生～

普通に思っていた日常が奪われ、それを取り戻すことの大変さを知ったと同時に、家族・友達を失うことの衝撃、悲しみ、苦しみを知りました。それでもがんばって生きていく子供たちの姿から、自らの生活を大切にし、家族を大切にし、友達を大切にし、もっと前を向いて自分たちもがんばっていかねばならないという気持ちを、子供たちは持つことができました。

NHKスペシャル 巨大津波“いのち”をどう守るのか

観光業への就職を目指す学生のクラスで利用しました。本県は海がありませんが、身近に鬼怒川堤防決壊があった後というタイミングになりました。避難訓練をしていたことや過去の津波被害体験がかえって避難行動を遅らせることもあるという事実に驚いた学生も多かったです。将来、お客様に安全な旅行を提供するために、旅行地での避難誘導のあり方について考える時間となったようでした。